

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5777563号
(P5777563)

(45) 発行日 平成27年9月9日(2015.9.9)

(24) 登録日 平成27年7月17日(2015.7.17)

(51) Int.Cl. F I
GO6F 13/00 (2006.01) GO6F 13/00 625
HO4L 12/58 (2006.01) HO4L 12/58 100Z

請求項の数 17 (全 19 頁)

(21) 出願番号	特願2012-107623 (P2012-107623)	(73) 特許権者	314015767
(22) 出願日	平成24年5月9日(2012.5.9)		マイクロソフト テクノロジー ライセン
(62) 分割の表示	特願2005-275755 (P2005-275755) の分割		シング, エルエルシー
原出願日	平成17年9月22日(2005.9.22)		アメリカ合衆国 ワシントン州 9805
(65) 公開番号	特開2012-155755 (P2012-155755A)		2 レッドモンド ワン マイクロソフト
(43) 公開日	平成24年8月16日(2012.8.16)	(74) 代理人	100140109
審査請求日	平成24年5月9日(2012.5.9)		弁理士 小野 新次郎
(31) 優先権主張番号	10/955,361	(74) 代理人	100075270
(32) 優先日	平成16年9月30日(2004.9.30)		弁理士 小林 泰
(33) 優先権主張国	米国 (US)	(74) 代理人	100101373
(31) 優先権主張番号	10/993,950		弁理士 竹内 茂雄
(32) 優先日	平成16年11月19日(2004.11.19)	(74) 代理人	100118902
(33) 優先権主張国	米国 (US)		弁理士 山本 修

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 電子メールメッセージへの添付ファイルの間をナビゲートする方法およびコンピュータ読取り可能媒体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

1つ以上の電子メールメッセージへの1つ以上の添付ファイルの間をナビゲートする方法であって、

コンピュータ装置上に電子メールアプリケーションに対するユーザインタフェースを表示するステップであって、前記電子メールアプリケーションに対する前記ユーザインタフェースは、電子メールメッセージの間をナビゲートしおよび電子メールメッセージを選択するリストペインと、前記電子メールメッセージおよび前記電子メールメッセージへの添付ファイルのプレビューを表示する読取りペインとを含んでいる、表示するステップと、

前記リストペインの中に、前記電子メールメッセージの会話ビューを表示するステップであって、前記リストペインの中の前記会話ビューは前記電子メールメッセージを電子メール会話として表している、表示するステップと、

前記リストペインの中の電子メール会話の選択に応答して、前記選択された電子メール会話と関連付けられた電子メールメッセージの送信者識別子を表示するステップであって、前記送信者識別子は、前記リストペインの中で、前記電子メールメッセージの前記選択された電子メール会話との関連付けを示しているインデントレベルで表示される、表示するステップと、

前記選択された電子メール会話と関連付けられた電子メールメッセージの送信者識別子の選択を受信するステップであって、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージは、添付ファイルを有している、受信するステップと、

10

20

前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージのプレビューを、前記読取りペインの中に表示するステップと、

前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの前記添付ファイルに対する選択可能な識別子を、前記リストペインの中に表示するステップであって、前記リストペインの中の前記添付ファイルに対する前記選択可能な識別子は、前記選択された電子メールメッセージが選択されている間のみ、送信者名の表示に関連付けてリスト表示され、他の電子メールメッセージが選択された場合に前記表示された選択可能な識別子が非表示化される、表示するステップと、

前記リストペインの中の前記添付ファイルに対する前記選択可能な識別子の選択にตอบสนองして、前記電子メールアプリケーションの環境を切り替えることなしに、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの前記プレビューを置き換える、前記添付ファイルのプレビューを前記読取りペインの中に表示するよう構成されている、表示するステップと

を備えることを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記リストペインの中の、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの前記添付ファイルに対する前記選択可能な識別子の選択を受け取るステップと、

前記読取りペインの中に、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの前記プレビューを置き換える、前記添付ファイルのプレビューを表示するステップと

をさらに備えることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記リストペインの中の、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの第 2 の添付ファイルに対する第 2 の選択可能な識別子の選択を受け取るステップと、

前記読取りペインの中に、前記第 2 の添付ファイルのプレビューを表示するステップとをさらに備えることを特徴とする請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記読取りペインの中の、前記第 2 の添付ファイルのプレビューは、先に表示されていたプレビューを置き換えることを特徴とする請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

前記選択された電子メール会話と関連付けられた異なる電子メールメッセージの選択を受け取るステップと、

前記読取りペインの中に、前記添付ファイルの前記プレビューを置き換える、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記異なる電子メールメッセージのプレビューを表示するステップと

をさらに備えることを特徴とする請求項 2 に記載の方法。

【請求項 6】

前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記異なる電子メールメッセージの前記選択にตอบสนองして、前記リストペインから先に表示された選択可能な識別子を削除するステップ

をさらに備えることを特徴とする請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージを開く要求を受信するステップと、

開かれた電子メールメッセージとして見るために、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの内容を表示するステップと、

前記開かれた電子メールメッセージの中に、前記添付ファイルに対する異なる選択可能な識別子を表示するステップであって、前記添付ファイルに対する前記異なる選択可能な

10

20

30

40

50

識別子は、前記開かれた電子メールメッセージの中で、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの前記内容を置き換える、前記添付ファイルのプレビューを表示するように構成されている、表示するステップと

をさらに備えることを特徴とする請求項 5 に記載の方法。

【請求項 8】

前記開かれた電子メールメッセージの中に表示された前記選択された前記添付ファイルに対する前記異なる選択可能な識別子の選択を受け取るステップと、

前記開かれた電子メールメッセージの中に、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの前記内容を置き換える、前記添付ファイルのプレビューを表示するステップと

をさらに備えることを特徴とする請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

コンピュータ実行可能命令をストアしたコンピュータ読取り可能記憶媒体において、コンピュータによって実行されるときに、コンピュータに、

コンピュータ装置上に電子メールアプリケーションに対するユーザインタフェースを表示するステップであって、前記電子メールアプリケーションに対する前記ユーザインタフェースは、電子メールメッセージの間をナビゲートしおよび電子メールメッセージを選択するリストペインと、前記電子メールメッセージおよび前記電子メールメッセージへの添付ファイルのプレビューを表示する読取りペインとを含んでいる、表示するステップと、

前記リストペインの中に、前記電子メールメッセージの会話ビューを表示するステップであって、前記リストペインの中の前記会話ビューは前記電子メールメッセージを電子メール会話として表している、表示するステップと、

前記リストペインの中の電子メール会話の選択に応答して、前記選択された電子メール会話と関連付けられた電子メールメッセージの送信者識別子を表示するステップであって、前記送信者識別子は、前記リストペインの中で、前記電子メールメッセージの前記選択された電子メール会話との関連付けを示しているインデントレベルで表示される、表示するステップと、

前記選択された電子メール会話と関連付けられた電子メールメッセージの送信者識別子の選択を受信するステップであって、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージは、添付ファイルを有している、受信するステップと、

前記読取りペインの中に、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージのプレビューを表示するステップと、

前記リストペインの中に、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの前記添付ファイルに対する選択可能な識別子を表示するステップであって、前記リストペインの中の前記添付ファイルに対する前記選択可能な識別子は、前記選択された電子メールメッセージが選択されている間のみ、送信者名の表示に関連付けてリスト表示され、他の電子メールメッセージが選択された場合に前記表示された選択可能な識別子が非表示化される、表示するステップと、

前記リストペインの中の前記添付ファイルに対する前記選択可能な識別子の選択に応答して、前記電子メールアプリケーションの環境を切り替えることなしに、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの前記プレビューを置き換える、前記添付ファイルのプレビューを、前記読取りペインの中に表示するよう構成されている、表示するステップと

を実行させることを特徴とするコンピュータ読取り可能記憶媒体。

【請求項 10】

前記コンピュータによって実行されるときに、

前記リストペインの中の、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの前記添付ファイルに対する前記選択可能な識別子の選択を受け取るステップと、

前記読取りペインの中に、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メ

10

20

30

40

50

ールメッセージの前記プレビューを置き換える、前記添付ファイルのプレビューを表示するステップと

を、前記コンピュータに実行させるコンピュータ実行可能命令をさらにストアした請求項 9 に記載のコンピュータ読取り可能記憶媒体。

【請求項 1 1】

前記コンピュータによって実行されるときに、

前記リストペインの中の、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの第 2 の添付ファイルに対する第 2 の選択可能な識別子の選択を受け取るステップと、

前記読取りペインの中に、前記第 2 の添付ファイルのプレビューを表示するステップと

を、前記コンピュータに実行させるコンピュータ実行可能命令をさらにストアした請求項 1 0 に記載のコンピュータ読取り可能記憶媒体。

【請求項 1 2】

前記読取りペインの中の、前記第 2 の添付ファイルのプレビューは、先に表示されていたプレビューを置き換えることを特徴とする請求項 1 1 に記載のコンピュータ読取り可能記憶媒体。

【請求項 1 3】

前記コンピュータによって実行されるときに、

前記選択された電子メール会話と関連付けられた異なる電子メールメッセージの選択を受け取るステップと、

前記読取りペインの中に、前記添付ファイルの前記プレビューを置き換える、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記異なる電子メールメッセージのプレビューを表示するステップと

を、前記コンピュータに実行させるコンピュータ実行可能命令をさらにストアした請求項 1 0 に記載のコンピュータ読取り可能記憶媒体。

【請求項 1 4】

前記コンピュータによって実行されるときに、

前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記異なる電子メールメッセージの前記選択に応答して、前記リストペインから、先に表示された選択可能な識別子を削除するステップ

を、前記コンピュータに実行させるコンピュータ実行可能命令をさらにストアした請求項 1 3 に記載のコンピュータ読取り可能記憶媒体。

【請求項 1 5】

前記コンピュータによって実行されるときに、

前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージを開く要求を受信するステップと、

開かれた電子メールメッセージとして見るために、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの内容を表示するステップと、

前記開かれた電子メールメッセージの中に、前記添付ファイルに対する異なる選択可能な識別子を表示するステップであって、前記添付ファイルに対する前記異なる選択可能な識別子は、前記開かれた電子メールメッセージの中で、前記選択された電子メール会話と関連付けられた前記電子メールメッセージの前記内容を置き換える、前記添付ファイルのプレビューを表示するように構成されている、表示するステップと

を、前記コンピュータに実行させるコンピュータ実行可能命令をさらにストアした請求項 9 に記載のコンピュータ読取り可能記憶媒体。

【請求項 1 6】

前記コンピュータによって実行されるときに、

前記開かれた電子メールメッセージの中に表示された前記選択された前記添付ファイルに対する前記異なる選択可能な識別子の選択を受け取るステップと、

前記開かれた電子メールメッセージの中に、前記選択された電子メール会話と関連付け

10

20

30

40

50

られた前記電子メールメッセージの前記内容を置き換える、前記添付ファイルのプレビューを表示するステップと

を、前記コンピュータに実行させるコンピュータ実行可能命令をさらにストアした請求項 15 に記載のコンピュータ読取り可能記憶媒体。

【請求項 17】

コンピュータ実行可能命令をストアしたコンピュータ読取り可能記憶媒体において、コンピュータによって実行されるときに、コンピュータに、

コンピュータ装置上に電子メールアプリケーションに対するユーザインタフェースを表示するステップであって、前記電子メールアプリケーションに対する前記ユーザインタフェースは、電子メールメッセージの間をナビゲートしおよび電子メールメッセージを選択するリストペインと、前記電子メールメッセージおよび前記電子メールメッセージへの添付ファイルのプレビューを表示する読取りペインとを含んでいる、表示するステップと、

前記リストペインの中に、複数の電子メールメッセージと関連付けられた電子メール会話を表示するステップと、

前記リストペインの中の前記電子メール会話の選択にตอบสนองして、前記リストペインの中に、前記電子メール会話と関連付けられた前記複数の電子メールメッセージに対する送信者識別子を表示するステップであって、前記複数の電子メールメッセージに対する前記送信者識別子は、前記リストペインの中で、前記複数の電子メールメッセージの前記電子メール会話との関連付けを示しているインデントレベルで表示される、表示するステップと

、
複数の添付ファイルを有している前記電子メール会話の電子メールメッセージの選択にตอบสนองして、前記リストペインの中に、前記電子メール会話の前記電子メールメッセージの前記複数の添付ファイルに対する選択可能な識別子を表示するステップであって、前記複数の添付ファイルに対する前記選択可能な識別子は、前記リストペインの中で、前記複数の添付ファイルの前記電子メール会話の前記電子メールメッセージとの関連付けを示しているインデントレベルで表示され、前記複数の添付ファイルに対する前記選択可能な識別子は、前記選択された電子メールメッセージが選択されている間のみ、送信者名の表示に関連付けてリスト表示され、他の電子メールメッセージが選択された場合に前記表示された選択可能な識別子が非表示化され、前記リストペインの中の前記添付ファイルに対する前記選択可能な識別子の選択にตอบสนองして、前記電子メールアプリケーションの環境を切り替えることなしに、前記読取りペインの中に、前記電子メール会話の前記電子メールメッセージの前記複数の添付ファイルのプレビューを表示するよう構成されている、表示するステップと

を実行させることを特徴とするコンピュータ読取り可能記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【背景技術】

【0001】

本発明は、電子メールメッセージへの添付ファイルの間をナビゲートする方法およびコンピュータ読取り可能媒体に関する。

【0002】

電子メール（「Eメール」）クライアントアプリケーションプログラムのユーザは、普通、Eメールメッセージに添付された文書のコンテンツを見るために、ユーザが行わなければならないステップ数に不満を抱いている。多くの場合、ユーザはその添付ファイルのプレビューを見たいに過ぎない。プレビューは、その文書に関連付けられたアプリケーションプログラムにより文書を開いた場合にユーザが見るであろう内容を模倣した、文書の読取り専用表示である。しかし、典型的な場合、ユーザは、その添付ファイルを選択し、次いで、そのコンテンツを見るために添付ファイルに関連付けられたアプリケーションプログラムを起動する必要がある。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

Eメールの添付ファイルのコンテンツを見るために従来のプロセスが行われると、ユーザは、Eメールクライアントアプリケーションと、添付ファイルを見るために利用されるアプリケーションとの間でアプリケーション環境(context)を変更する必要がある。ユーザが、添付ファイルを見終わったとき、ユーザはそのアプリケーションプログラムを終了させ、Eメールクライアントアプリケーションに戻ることによって、再度、アプリケーション環境を切り替えなくてはならない。Eメールの添付ファイルのプレビューを見るために、このようにアプリケーション環境を切り替えるのは、ユーザにとって時間のかかることであり、不満となり得る。

【0004】

従来のアプリケーションプログラムは、ユーザにアプリケーション環境を切り替えることなくEメールの添付ファイルのコンテンツを見ることができない機構を提供していないので、それはまた、Eメールメッセージの添付ファイル内をナビゲートするための使いやすい機構も提供していない。特に、これらのアプリケーションプログラムは、ユーザが、利用可能なEメールメッセージの添付ファイルを容易に見ることができ、かつプレビューのために添付ファイルの1つを選択することが可能なユーザインタフェース機構を提供していない。

【0005】

これらのおよび他の考慮に関連して、本発明の様々な実施形態が行われている。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の諸実施形態によると、上記のおよび他の問題は、電子メールメッセージへの添付ファイルの間をナビゲートする方法およびコンピュータ読取り可能媒体によって解決される。本発明の様々な実施形態は、ユーザに任意の数の添付ファイルから電子メールメッセージへの添付ファイルを速やかに識別し選択することを可能にする。本発明の諸実施形態はまた、ユーザにアプリケーション環境を切り替えることなくEメールの添付ファイルのコンテンツを速やかにプレビューできるようにする。

【0007】

本発明の一実施形態によると、Eメールメッセージへの添付ファイルの間をナビゲートする方法が提供される。本方法によると、各メッセージに関連付けられたヘッダ情報を含むEメールメッセージのリストが表示される。例えば、そのリストは、各Eメールメッセージの送信者、Eメールメッセージごとの件名、およびEメールメッセージごとの受信時間を識別するヘッダ情報を含むことができる。また、他の情報を表示することも可能である。リスト中のメッセージの1つが選択されると、その選択されたメッセージが添付ファイルを有するかどうかについて判定が行われる。選択されたメッセージが添付ファイルを有する場合、添付ファイルごとのヘッダ情報に隣接して識別子が表示される。識別子は、添付ファイルが選択されたメッセージに関連付けられていることを示すと共に、その添付ファイルのタイプやサイズなどの他の情報も提供することができる。識別子は、選択されたEメールメッセージに添付ファイルが関連付けられていることをユーザに明確に示す方法によって表示される。

【0008】

本発明の他の諸実施形態によると、1つの添付ファイルに対応する複数の識別子のうちの1つを選択することができる。このような選択にตอบสนองして、選択されていたEメールメッセージは選択が解除され、選択された識別子に対応する添付ファイルに対するプレビューが生成され表示される。他の添付ファイルに対応する他の識別子が選択された場合、その添付ファイルに対するプレビューが生成され表示される。リスト中の他のEメールメッセージが選択された場合は、最初に選択されたEメールメッセージの識別子は除去され、新しく選択されたEメールメッセージに対する任意の識別子が表示される。

【0009】

本発明の他の実施形態によると、リスト中のEメールメッセージのうちの1つの選択を

10

20

30

40

50

受け取ることができる。また、その選択されたメッセージを見るために開くこと求める要求を受け取ることにもできる。それは、例えば、リスト中のEメールメッセージをマウスでダブルクリックすることにより行うことができる。このような要求に回答して、見るために選択されたEメールメッセージが開かれ、その選択されたメールメッセージのコンテンツが表示される。表示されたEメールメッセージへの添付ファイルの間をナビゲートするためのユーザインタフェースも表示される。そのユーザインタフェースは、選択されたメッセージへの各添付ファイルに対する識別子を含み、選択されたメールメッセージのコンテンツの表示に隣接して表示することができる。

【0010】

他の実施形態によると、添付ファイルの間をナビゲートするためのユーザインタフェース内の識別子のうちの1つの選択を受け取ることができる。このような選択に回答して、選択された識別子に対応する添付ファイルに対するプレビューが生成され、そのプレビューが表示される。プレビューは、選択されたメールメッセージのコンテンツの表示に隣接して表示することができる。このような方法で、ユーザは、選択されたEメールメッセージのコンテンツと、選択された添付ファイルのプレビューを共に容易に見ることができる。

10

【0011】

本発明は、コンピュータプロセスやコンピューティングシステムとして、またはコンピュータプログラム製品もしくはコンピュータ読取り可能媒体などの製品として実装することができる。コンピュータプログラム製品は、コンピュータシステムによって読取り可能な、またコンピュータプロセスを実行するためのコンピュータプログラム命令を符号化したコンピュータ記憶媒体とすることができる。コンピュータプログラム製品はまた、コンピューティングシステムによって読取り可能な、またコンピュータプロセスを実行するためのコンピュータプログラム命令を符号化した、キャリア上における送信信号とすることができる。

20

【0012】

本発明を特徴付けるこれらのおよび他の様々な機能、ならびに利点は、以下の詳細な説明を読み、また関連する図面を検討することによって明らかとなる。

【発明の効果】

【0013】

本発明により、ユーザにアプリケーション環境を切り替えることなくEメールの添付ファイルのコンテンツを見ることができ、機構を提供することができる。また、Eメールメッセージの添付ファイル内をナビゲートするための使いやすい機構を提供することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本発明の様々な実施形態により使用され、提供されるコンピュータシステムを示すコンピュータシステムアーキテクチャの図である。

【図2A】本発明の様々な実施形態によって提供されるいくつかの画面表示を示す図である。

40

【図2B】本発明の様々な実施形態によって提供されるいくつかの画面表示を示す図である。

【図2C】本発明の様々な実施形態によって提供されるいくつかの画面表示を示す図である。

【図3】本発明の様々な実施形態によって提供されるいくつかの画面表示を示す図である。

【図4】本発明のいくつかの実施形態によって提供される様々なプロセスを示すフロー図である。

【図5】本発明のいくつかの実施形態によって提供される様々なプロセスを示すフロー図である。

50

【図6】本発明のいくつかの実施形態によって提供される様々なプロセスを示すフロー図である。

【発明を実施するための形態】

【0015】

次に、同じ数字は同じ要素を示している図面を参照すると、本発明の様々な態様が示されている。具体的には、図1およびそれに対応する議論は、本発明の諸実施形態が実施できる適切なコンピューティング環境の簡単な全体の説明を行うことを目的としている。本発明は、パーソナルコンピュータのオペレーティングシステム上で動作するプログラムモジュールと共に実行される、プログラムモジュールの一般的な文脈中に記述されるが、当業者であれば、本発明を、他のタイプのコンピュータシステムおよびプログラムモジュールと組み合わせて実施することができることも理解されよう。

10

【0016】

一般に、プログラムモジュールは、ルーチン、プログラム、コンポーネント、データ構造、および特定のタスクもしくは特定の抽象型データタイプを実施する他のタイプの構造を含む。さらに、当業者であれば、本発明は、ハンドヘルド装置、マルチプロセッサシステム、マイクロプロセッサベースのまたはプログラム可能な家庭用電子機器、ミニコンピュータ、メインフレームコンピュータなどを含めた、他のコンピュータシステム構成を用いて実施できることが理解されよう。本発明はまた、通信ネットワークを介してリンクされた遠隔処理装置によりタスクが実施される分散型コンピューティング環境中でも実施することができる。分散型コンピューティング環境では、プログラムモジュールは、ローカルおよび遠隔のメモリ記憶装置中に位置することができる。

20

【0017】

次に、図1を参照すると、本発明の様々な実施形態中で使用されるコンピュータ2のための例示的なコンピュータアーキテクチャが示されている。図1に示すコンピュータアーキテクチャは、中央処理装置（「CPU」）5と、ランダムアクセスメモリ（「RAM」）9および読取り専用メモリ（「ROM」）11を含むシステムメモリ7と、そのメモリをCPU5に結合するシステムバス12とを含む従来のデスクトップまたはラップトップコンピュータを示す。起動中などに、コンピュータ内の要素間で情報を転送することができる基本ルーチンを含む基本入出力システムは、ROM11に記憶される。コンピュータ2はさらに、オペレーティングシステム16、アプリケーションプログラム、および他のプログラムモジュールを記憶するための大容量記憶装置14を含み、その説明を以下でより詳しく行うものとする。

30

【0018】

大容量記憶装置14は、バス12に接続された大容量記憶制御装置（図示せず）を介してCPU5に接続されている。大容量記憶装置14およびそれに関連するコンピュータ読取り可能媒体は、コンピュータ2に不揮発性のストレージを提供する。本明細書に含まれるコンピュータ読取り可能媒体の説明は、ハードディスクやCD-ROMドライブなどの大容量記憶装置を指すが、当業者なら、コンピュータ読取り可能媒体は、コンピュータ2によってアクセス可能な任意の利用可能な媒体とすることができることを理解されたい。

【0019】

例示のためであり、それに限定するものではないが、コンピュータ読取り可能媒体は、コンピュータ記憶媒体および通信媒体を含むことができる。コンピュータ記憶媒体は、コンピュータ可読命令、データ構造、プログラムモジュール、または他のデータなどの情報を記憶するための任意の方法または技術で実施される揮発性/不揮発性、取外し可能/取外し不能媒体を含む。コンピュータ記憶媒体は、それに限定するものではないが、RAM、ROM、EPROM、EEPROM、フラッシュメモリもしくは他の固体メモリ技術、CD-ROM、DVD、もしくは他の光記憶、磁気カセット、磁気テープ、磁気ディスクストレージ、もしくは他の磁気記憶装置、あるいは所望の情報を記憶するのに使用可能な、またコンピュータ2によってアクセス可能な他の任意の媒体を含む。

40

【0020】

50

本発明の様々な実施形態によると、コンピュータ2は、インターネットなどのネットワーク18を介した遠隔コンピュータへの論理接続を用いてネットワーク化された環境中で動作することができる。コンピュータ2は、バス12に接続されたネットワークインターフェースユニット20を介してネットワーク18に接続することができる。ネットワークインターフェースユニット20はまた、他のタイプのネットワークおよび遠隔コンピュータシステムに接続するために使用できることを理解されたい。コンピュータ2はまた、キーボード、マウス、または電子スタイラスを含むいくつかの他の装置(図1中に示さず)からの入力を受け取り、処理するための入出力制御装置22を含むことができる。同様に、入出力制御装置22は、表示画面、プリンタ、または他のタイプの出力装置への出力を提供することができる。

10

【0021】

簡単に前に述べたように、米国ワシントン州レッドモンドのMICROSOFT CORPORATION(マイクロソフト社)のWINDOWS(登録商標)XPオペレーティングシステムなど、ネットワーク化されたパーソナルコンピュータの動作を制御するのに適したオペレーティングシステム16を含むいくつかのプログラムモジュールおよびデータファイルは、コンピュータ2の大容量装置14およびRAM9に記憶することができる。大容量記憶装置14およびRAM9はまた、1つまたは複数のプログラムモジュールを記憶することができる。具体的には、大容量記憶装置14およびRAM9は、Eメールクライアントアプリケーション24を記憶することができる。Eメールクライアントアプリケーション24は、ネットワーク18を介してEメールメッセージ26を送信し受信することを動作可能にする。送信または受信されたEメールメッセージはまた、添付ファイル28を含むことができる。添付ファイルは、任意のファイルタイプを含むことができ、通常、画像、ワードプロセッシング文書、圧縮ファイル、および他のタイプのファイルを含むことができる。

20

【0022】

ここでより詳細に説明するように、Eメールクライアントアプリケーション24は、Eメールメッセージの添付ファイルの間をナビゲートするためのユーザインタフェースを提供するよう動作することができる。本発明の諸実施形態はまた、ユーザが他のアプリケーションプログラムに切り換えることを必要とせず、Eメールメッセージに添付された文書のプレビューを表示するように動作可能である。ユーザインタフェースおよびそのインターフェースを生成するためのプロセスに関する詳細な説明は、図2A~図2C、図4および図6に対して以下に提供される。Eメールクライアントアプリケーション24はまた、Eメールメッセージに添付された文書に対して実施することが可能な1つまたは複数のアクションを識別することを動作可能にする。そのアクションを実施するためのユーザインタフェースオブジェクトは、プレビューユーザインタフェースの一部としてユーザに表示することができる。

30

【0023】

Eメールクライアントアプリケーション24によって提供されるアクションの1つは、添付ファイルを有するEメールメッセージへの返信としてEメールメッセージを速やかに生成するためのアクションを含む。返信のEメールメッセージには、元の添付ファイルの変更版が含まれる。この機能を提供するために、Eメールクライアントアプリケーション24は、元の添付ファイルを編集できるアプリケーションプログラム30を起動することができる。したがって、ユーザはその添付ファイルを編集することが可能となり、元のEメールメッセージの返信として、変更した添付ファイルを速やかに送信することができる。変更した添付ファイルと共にEメールメッセージに返信するためのアクションに関するさらなる詳細な説明を、以下、図3および図5に関して提供する。

40

【0024】

本発明の諸実施形態によると、Eメールクライアントアプリケーション24は、MICROSOFT CORPORATIONのOUTLOOK個人情報マネージャアプリケーションプログラムを含む。しかし、本発明は、他の製造者によって提供されるEメールメッ

50

ページを送信し、受信できる他のアプリケーションプログラムを利用することもできることを理解されたい。本発明の実施形態によると、アプリケーション30は、MICROSOFT CORPORATIONのワードプロセッシングアプリケーションプログラムであるWORDなどのワードプロセッシングアプリケーションプログラムを含む。しかし、他のタイプのアプリケーションプログラムおよび他の製造者の他のワードプロセッシングアプリケーションプログラムを本発明の様々な態様を実施するのに利用できることを理解されたい。

【0025】

Eメールメッセージの添付ファイルのプレビューを生成するために、Eメールクライアントアプリケーション24は、プレビューハンドラ32のサービスを利用する。プレビューハンドラ32は、添付ファイルに対する視覚的なプレビューを生成できるプレビューア(*previewer*)を突き止め、実行することを担当する。プレビューアは、Eメールクライアントアプリケーション24によって提供されるウィンドウ中にプレビューを表示する。このように、プレビューは、別のプレビューアによって表示されたとしても、そのプレビューは、Eメールクライアントアプリケーションプログラム24によって表示されたように見える。例示的なプレビューハンドラの動作は、参照のため本明細に明示的に組み込まれている、2004年9月30日出願の「Method, System, and Apparatus for Providing A Document Preview」と題する米国特許出願第10/954,328号(整理番号60001.416US01)に記載されている。

【0026】

次に、図2Aを参照すると、本発明の様々な実施形態によって提供される例示的なユーザインターフェースが示されている。具体的には、図2Aは、Eメールクライアントアプリケーション24によって生成された画面表示40を示す。画面表示40は、1つまたは複数のEメールメッセージ44A~44Dがその中で識別されるリストペイン42を有するユーザインターフェースウィンドウを含む。図2に示すように、Eメールメッセージ44A~44Dは、送信者名、メッセージの件名、およびそのメッセージが送信された時間を含むEメールヘッダ情報の一部を表示することによって識別される。リストペイン42中に、Eメールメッセージ44A~44Dを識別するための他の情報を表示することもできることを理解されたい。

【0027】

図2Aに示すように、Eメールメッセージ44Dは、3つの添付された文書46A~46Cを含む。添付ファイル46A~46Cは、Eメールメッセージ44Dから各添付ファイルに延長された線によって、Eメールメッセージ44Dへの添付ファイルとして示されている。さらに、添付ファイル46A~46Cは、文書タイプに対応するアイコン、各添付ファイルの名前、および各添付ファイルのサイズの指示によって識別される。添付ファイル46A~46Cに対するインディケータ(*indicator*)はまた、Eメールメッセージ44Dに対するインディケータからのオフセットであり、親/子関係を示す。他のタイプの情報もまた、各添付ファイルに対して表示することができる。添付ファイルが存在することを示すために、Eメールメッセージ44Dと共に、クリップのアイコンを表示することもできるが、任意のタイプのアイコンまたは視覚的なインディケータを利用することもできる。

【0028】

本発明の一実施形態によると、添付ファイル46A~46Cのそれぞれに対するインディケータは、メッセージ44Dを選択することに応答して表示されるだけであることを理解されたい。他のメッセージが選択されたとき、添付ファイル46A~46Cに対するインディケータは除去される。新しく選択されたメッセージが添付ファイルを有する場合、その添付ファイルに対する識別子が表示される。新しく選択されたメッセージが添付ファイルを有していない場合は、識別子は何も表示されない。

【0029】

本発明の他の諸態様によると、ユーザは、適切なユーザ入力装置を使用して添付ファイ

10

20

30

40

50

ル46A～46Cのうちの1つを選択することができる。例えば、添付ファイルを選択するのに、添付ファイル46Aに対して1回のクリックを行えばよい。このような選択にตอบสนองして、添付ファイルのプレビュー50が生成され、読取りペイン(reading pane)48中に表示される。読取りペイン48は、リストペイン42に隣接して表示される。読取りペイン48はまた、添付ファイルの名前や添付ファイルのサイズなど、添付ファイル46Aに関する他の情報を含むこともできる。添付されたピクチャ中のピクセル数など、添付ファイルタイプに特有の情報も表示することができる。ユーザが他の添付ファイル46A～46Cを選択した場合は、選択された添付ファイルのプレビューが生成されて読取りペイン48中に表示される。

【0030】

本発明の諸態様によると、Eメールクライアントアプリケーション24はまた、添付ファイルに対して実施することが可能な1つまたは複数のアクションを識別し、かつプレビュー50と共に利用可能なアクションを表示するのを動作可能にすることができる。例えば、図2Aに示すように、添付ファイル46Aに対するいくつかのアクション52A～52Dが識別されている。具体的には、アクション52Aにより、添付ファイルを大容量記憶装置14に保存し、アクション52Bにより、添付ファイル46～46Cに対するスライドショーを生成し表示し、アクション52Cにより、プレビューされた添付ファイル46Aを印刷し、またアクション52Dにより、添付ファイル52Dを削除することができる。

【0031】

各ファイルタイプに対して多くの様々なタイプのアクションを識別できることを理解されたい。例えば、画像およびプレゼンテーション文書に対してスライドショーアクションを利用し、添付されたミーティングの要求を受け入れまたは断るためにアクションを利用し、添付された連絡先ファイルを個人情報マネージャ中の連絡先リストに追加し、オーディオファイルに対する再生コントロールを表示し、また添付されたファックス文書を表示するためのアクションを提供することができる。開く、保存する、削除する、および印刷するなど、すべてのファイルタイプに適切な他のアクションもまた、表示することができる。一実施形態では、特定のファイルタイプに特有のアクションだけが、プレビュー50に隣接して表示される。すべてのファイルタイプに共通の他のアクションは、ツールバー54中に表示することができる。複数の添付ファイルが選択されたとき、示されるヘッダおよびプレビューは、最初の添付ファイルに対するものとするすることができる。選択された添付ファイルのすべてに対して利用可能なアクションだけは、プレビュー50の近傍に表示することになる。

【0032】

本発明の他の諸態様によると、ユーザは、Eメールメッセージ44A～44Dのうちの1つを見るために開くこと求める要求を提供することができる。例えば、ユーザは、マウス入力装置を用いて、メッセージ44A～44Dの1つを「ダブルクリック」することができる。このような要求にตอบสนองして、図2Bに示すものなどの画面表示70を表示することができる。図2Bに示すように、画面表示70は、選択されたEメールメッセージのコンテンツが表示される本体領域72を含む。画面表示70はまた、選択されたEメールメッセージへの添付ファイルの間をナビゲートするためのユーザインターフェース75も含む。

【0033】

ユーザインターフェース75は、選択されたEメールメッセージのための識別子76と、選択されたEメールメッセージへの添付ファイルのそれぞれに対する1つまたは複数の識別子78A～78Cを含む。一実施形態では、識別子78A～78Cは、添付ファイルのタイプおよび添付ファイルの名前を識別するアイコンを含む。他のタイプの情報も提供することができる。図2Bに示すように、識別子76および78A～78Cは、選択されたEメールメッセージに添付ファイルが関連付けられていることを明確に示す方法で表示される。特に、選択されたメッセージとその添付ファイルの間の階層関係を示すための線

10

20

30

40

50

が表示される。その関係をユーザに示すために他のタイプのユーザインタフェースを提供することもできる。

【0034】

本発明の一実施形態によると、ユーザが、インディケータ76および78A~78Cを選択することができる。インディケータ76が選択された場合、Eメールメッセージのコンテンツが本体領域72中に表示される。インディケータ78A~78Cのうちの1つが選択された場合、選択されたインディケータに対応する添付ファイルに対するプレビューが生成され、そのプレビューが本体領域72中に表示される。他の実施形態によると、選択されたEメールメッセージのコンテンツを継続的に表示することも可能であり、また選択された添付ファイルに対するプレビューを、同時に別のプレビュー領域74中に表示することもできる。このような方法で、選択されたEメールメッセージの本体と、選択された添付ファイルのプレビューを同時に見ることが可能になる。

10

【0035】

次に図2Cを参照して、本発明の様々な実施形態の他の諸態様を説明する。図2Cに示すように、リストペイン42中で識別されたメッセージを会話ビュー(*conversation view*)中に表示することができる。会話ビューは、メッセージをその送信順および受信順に従って分類し、各メッセージにインデントを付ける。会話ビューでは、特定のEメールメッセージ44Eへの添付ファイルに対するインディケータ46Dおよび46Eを上記の方法で表示することができる。特に、識別子46Dおよび46Eは、添付ファイルのタイプおよび添付ファイルの名前を示すアイコンを含むことができる。さらに、会話ビュー中のメッセージ44Eのうちの1つとその添付ファイルの間の階層を、会話ビューを妨げることなく、メッセージ44Eと識別子46Dおよび46Eの間に線を表示することによって示すことができる。

20

【0036】

図3を参照すると、本発明の様々な実施形態によって提供される他の例示的なユーザインタフェースが示されている。具体的には、図3は、本発明の様々な実施形態に関連して利用されるワードプロセッシングアプリケーションによって生成された画面表示60を示す。前述のように、本発明の諸実施形態によると、特定の種類の添付文書に対して、ユーザは、速やかに添付ファイルを編集し、変更された文書を、添付ファイルとして含む返信Eメールを送信可能にするアクションを提供することができる。このようなアクションの選択にตอบสนองして、ワードプロセッシングアプリケーションプログラムが、その添付された文書を編集するために起動される。図3に示す画面表示60は、そのようにして起動された後に、ワードプロセッシングアプリケーションによって示された画面表示を示す。

30

【0037】

図3に示すように、ワードプロセッシングアプリケーションプログラムは、文書28を編集するための従来のツールを提供する。「変更を有する返信(*Reply with changes*)」ボタン62がまた、文書28を編集するためのユーザインタフェースと共に表示される。ボタン62を選択することにより、Eメールフィールドが取り込まれ、かつ文書28が添付されて、返信メッセージが生成される。次いで、ユーザは、返信メッセージのコンテンツを編集し、そのメッセージを送信することができる。Eメールクライアントアプリケーション24およびワードプロセッシングアプリケーションをこのように統合することにより、ユーザは、以前のEメールクライアントアプリケーションで必要な、Eメールメッセージに添付された文書を編集するための長いプロセスから開放される。

40

【0038】

本明細書に記載された本発明の実施形態は、ワードプロセッシングアプリケーションプログラムの文脈中で提示されているが、他のタイプのアプリケーションプログラムも同様に使用することができることを理解されたい。例えば、Eメールメッセージが、添付ファイルとしてプレゼンテーション文書を含む場合、プレゼンテーションプログラムを、修正された添付ファイルを含む返信メッセージを送信するための要求にตอบสนองして起動すること

50

ができる。同様にして、他の任意のタイプの文書を編集し送信することができる。

【 0 0 3 9 】

図 4 を参照すると、Eメールへの添付ファイルをプレビューし、それに対してアクションを行うEメールクライアントアプリケーション 2 4 によって実施されるプロセスを示す例示的なルーチン 4 0 0 が示されている。ここに述べる本発明の諸実施形態は、Eメールクライアントアプリケーションプログラム 2 4 の文脈中に提示されているが、本発明は、他のタイプのアプリケーションプログラム中で利用できることを理解されたい。

【 0 0 4 0 】

ここに提示されたルーチンの議論を読むと、本発明の様々な実施形態の論理的なオペレーションが、(1) コンピューティングシステム上で動作する一連のコンピュータで実施される動作 (a c t) またはプログラムモジュールとしておよび / または (2) コンピューティングシステム内で相互接続されたマシン論理回路または回路モジュールとして実装されることを理解されたい。その実装形態は、本発明を実施するコンピューティングシステムの性能要求条件に依存して選択することになる。したがって、図 4 ~ 図 5 に示す論理的なオペレーション、およびここに記載の本発明の諸実施形態の構成は、オペレーション、構造的な装置、動作、またはモジュールと様々に呼ばれる。当業者なら、これらのオペレーション、構造的な装置、動作、およびモジュールは、本明細書に記載の特許請求の範囲内に述べられた本発明の趣旨および範囲を逸脱することなく、ソフトウェア、ファームウェア、特殊目的のデジタル論理回路、およびそれらの任意の組み合わせで実施することができることを理解されたい。

【 0 0 4 1 】

オペレーション 4 0 2 で、ルーチン 4 0 0 は開始し、Eメールクライアントアプリケーション 2 4 がリストペイン 4 2 中にEメールメッセージを表示する。次いで、ルーチン 4 0 0 は、オペレーション 4 0 4 に進み、そのリストペイン中に示された、Eメールメッセージに添付されている文書も表示される。その添付ファイルは、図 2 で前述のように表示することができる。ルーチン 4 0 0 は、オペレーション 4 0 4 からオペレーション 4 0 6 に進む。

【 0 0 4 2 】

オペレーション 4 0 6 で、Eメールクライアントアプリケーション 2 4 は、ユーザによるEメールメッセージへの添付ファイルの選択を受け取る。その選択にตอบสนองして、Eメールクライアントアプリケーション 2 4 は、その添付ファイルに対するプレビューを識別し、添付ファイルのプレビューを生成するようプレビューハンドラ 3 2 に命令する。次いで、オペレーション 4 0 8 で、生成されたプレビューは、Eメールクライアントアプリケーション 2 4 により、読取りペイン 4 8 中に表示される。ルーチン 4 0 0 は、オペレーション 4 0 8 からオペレーション 4 1 0 に進む。

【 0 0 4 3 】

オペレーション 4 1 0 で、Eメールクライアントアプリケーション 2 4 は、添付ファイルに対して実施することが可能なアクションを識別する。次いで、識別されたアクションに対して、ボタンなどのユーザインターフェースオブジェクトがプレビュー 5 0 に隣接して表示される。それは、オペレーション 4 1 2 で行われる。ルーチン 4 0 0 は、オペレーション 4 1 2 からオペレーション 4 1 4 に進み、表示されたアクションのうちの 1 つを実施するための要求をユーザから受け取る。その要求は、例えば、表示されたユーザインターフェースオブジェクトの 1 つを選択することによって行うことができる。次いで、ルーチン 4 0 0 は、オペレーション 4 1 6 に進み、要求されたオペレーションが実施される。次いで、ルーチン 4 0 0 は、オペレーション 4 1 6 からオペレーション 4 1 8 に進んで終了する。

【 0 0 4 4 】

次に、図 5 を参照すると、添付された文書の変更を変更してEメールメッセージに返信するためのアクションを実施するための例示的なルーチン 5 0 0 が示されている。オペレーション 5 0 2 で、ルーチン 5 0 0 は開始し、添付ファイルを有するEメールメッセージ

10

20

30

40

50

が、Eメールクライアントアプリケーション24によって受信される。ルーチン500は、オペレーション502から504に進み、添付された文書を変更して元のEメールに返信するための要求が受信される。その要求は、例えば、プレビューに関連付けられたアクションのうちの1つをユーザが選択することによって行うことができる。ルーチン500は、オペレーション504からオペレーション506に進む。

【0045】

オペレーション506で、Eメールクライアントアプリケーション24は、その添付ファイルに関連付けられたアプリケーションプログラムを起動する。例えば、その添付ファイルがワードプロセッシング文書を含む場合、Eメールクライアントアプリケーション24は、文書を編集するためにワードプロセッシングアプリケーションを起動する。アプリケーションプログラムはまた、文書を再検討および修正するために特に指定された状態において起動することもできる。このような状態は、普通、「レビュー(review)」モードと呼ばれ、他のユーザにより、修正が容易に識別され、読むことができる方法で文書修正を行うための機能を提供する。

10

【0046】

前に簡単に説明したように、アプリケーションプログラムはまた、編集画面と共に、「変更を有する返信」ボタン62を表示させるように起動することもできる。それは、オペレーション506で行われ、それにより、ユーザは、元のEメールメッセージへの返信として変更した文書を容易に速やかに送信することができる。ルーチン500は、オペレーション506からオペレーション508に進み、ユーザからの添付文書への変更が受信される。次いで、ルーチン500は、オペレーション510に進み、ボタン62を選択することによって変更された文書を含めた返信のEメールメッセージを送信するための要求をユーザから受け取る。

20

【0047】

変更された文書を含めた返信Eメールを送信するための要求の受信にตอบสนองして、ルーチン500は、オペレーション512に進み、変更された文書が添付された返信メッセージが作成される。次いで、ユーザは、コメントを追加することができる。ユーザがそのメッセージの送信を指示した場合、ルーチンはオペレーション516に進み、Eメールクライアントアプリケーションが、変更された文書を添付して、返信のEメールを送信する。アプリケーションプログラムが閉じられて、ユーザは、Eメールクライアントアプリケーション24によって提供された表示に戻る。次いで、ユーザは、他の文書をプレビューし、ここに述べた方法でEメールクライアントアプリケーション24と対話することができる。ルーチン500は、オペレーション514からオペレーション518に進んで終了する。

30

【0048】

次に図6を参照すると、図2Bに関して前述したものなど、Eメールメッセージのコンテンツを示すビュー中でEメールメッセージへの添付ファイルの間をナビゲートするための例示的なルーチン600が説明されている。オペレーション602で、ルーチン600は開始し、Eメールメッセージのコンテンツを見るために開くことを求める要求をユーザから受け取る。特に、このような要求は、Eメールメッセージ上をマウスでダブルクリックすること、または等価的なキーストロークを含むことができる。ルーチン600は、オペレーション602からオペレーション604に進む。

40

【0049】

オペレーション604で、選択されたメッセージに対して図2Bに示されたものと類似の画面表示を表示することができる。前述のように、画面表示は、選択されたEメールメッセージのコンテンツの表示を含む。ルーチン600は、オペレーション604からオペレーション606に進み、開かれたEメールメッセージへの添付ファイル内をナビゲートするためのユーザインタフェース75が表示される。オペレーション608で、ユーザが、ユーザインタフェース75内の添付ファイルに対する識別子を選択した場合、それに対応する添付ファイルに対するプレビューが生成される。次いで、オペレーション610で

50

、プレビューが表示される。Eメールメッセージのどんな添付ファイルもこのような方法でプレビューできることを理解されたい。ユーザが、Eメールメッセージのコンテンツおよび添付ファイルのプレビューを見ることが完了すると、ユーザは、その画面表示を閉じて図2Aに示す画面表示に戻ることができる。それに従って、オペレーション612で、ルーチン600は終了する。

【0050】

上述の内容に基づき、本発明の様々な実施形態は、電子メールメッセージへの添付ファイルをナビゲートし、かつプレビューするための、方法、システム、装置、およびコンピュータ読取り可能媒体を含むことを理解されたい。上記の仕様、諸実施例、およびデータは、本発明の構成の製造および使用に関する完全な説明を提供する。本発明の趣旨および範囲を逸脱することなく、本発明の多くの実施形態を行うことができるので、本発明は、本明細書に添付された特許請求の範囲中に存在する。

10

【産業上の利用可能性】

【0051】

本発明は、情報処理に、特に電子メールクライアントアプリケーションプログラムに利用することができる。

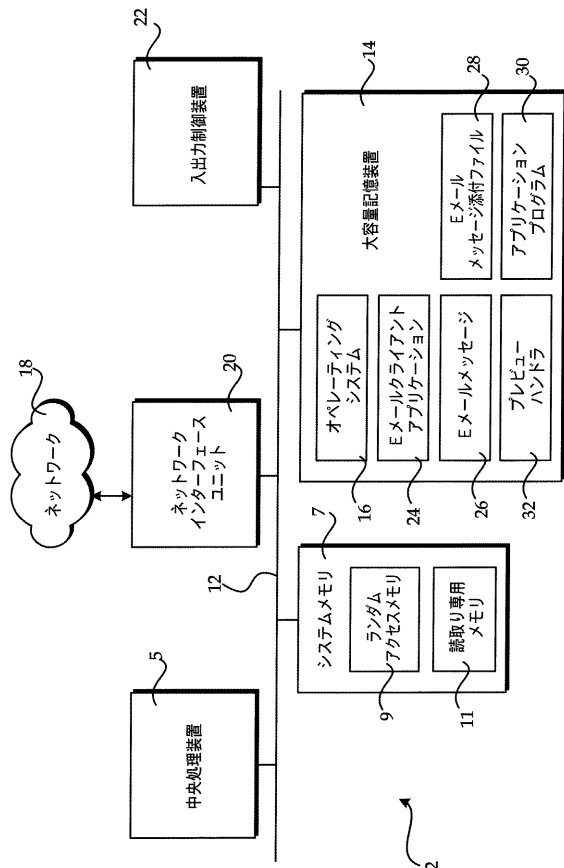
【符号の説明】

【0052】

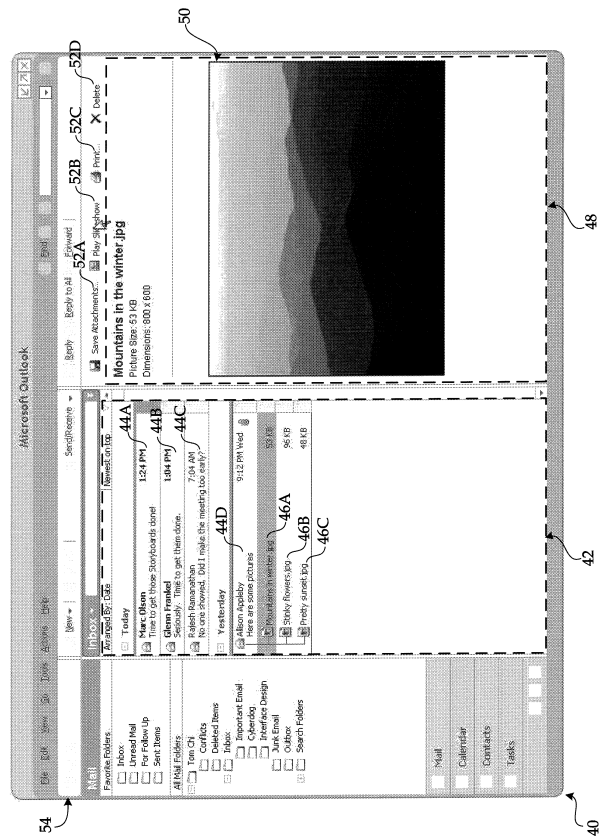
- 2 コンピュータ
- 12 システムバス
- 40、60、70、80 画面表示

20

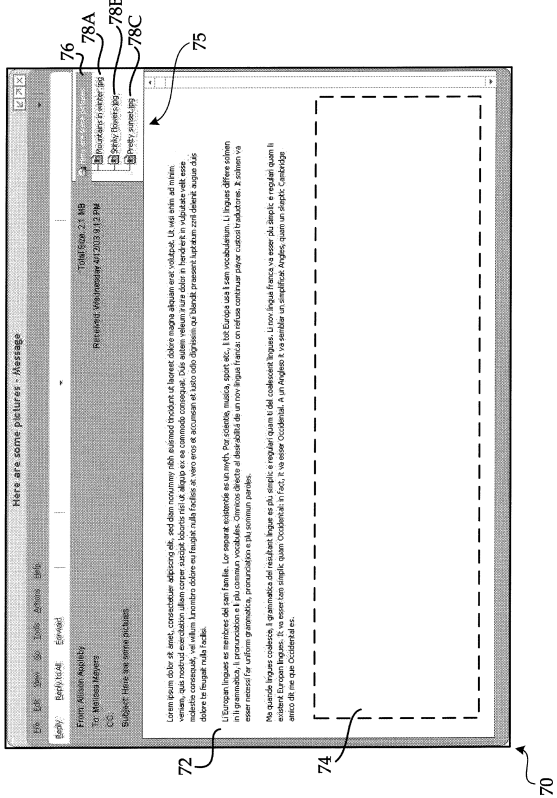
【図1】



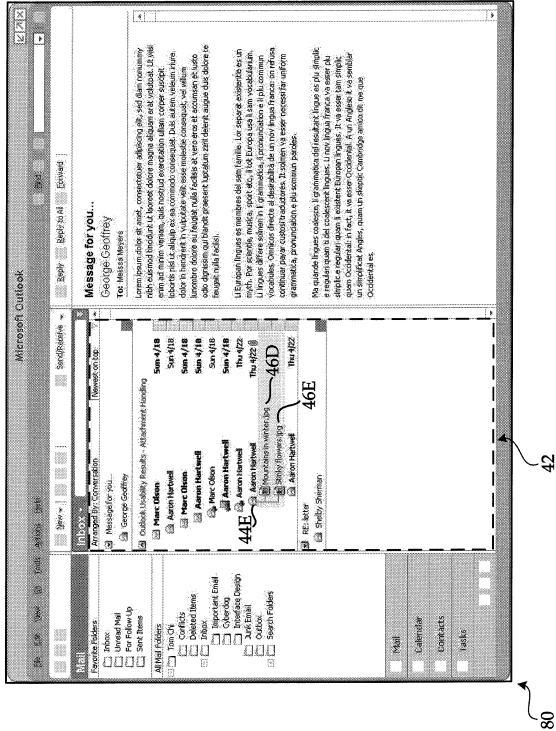
【図2A】



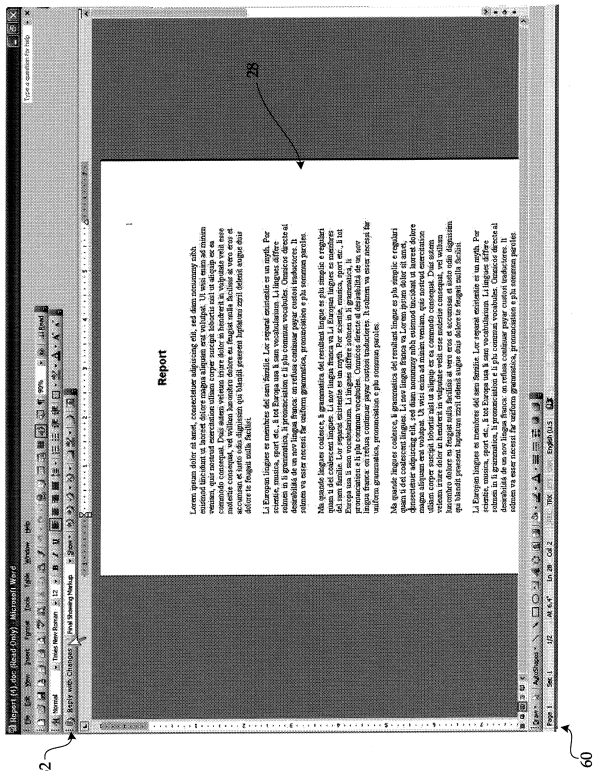
【 図 2 B 】



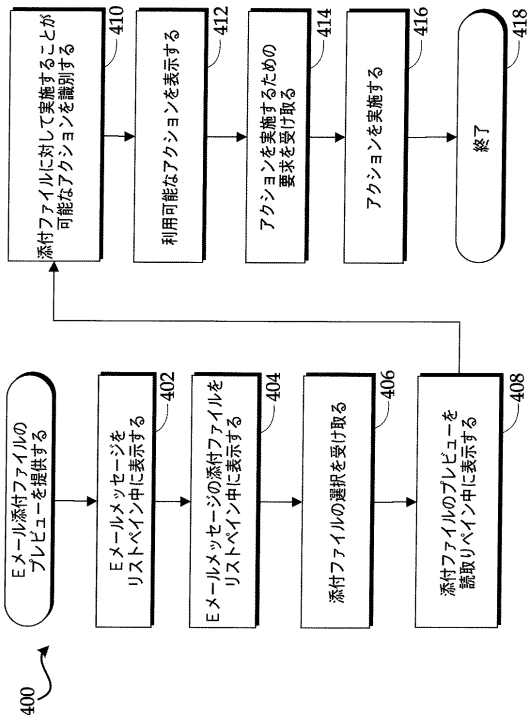
【 図 2 C 】



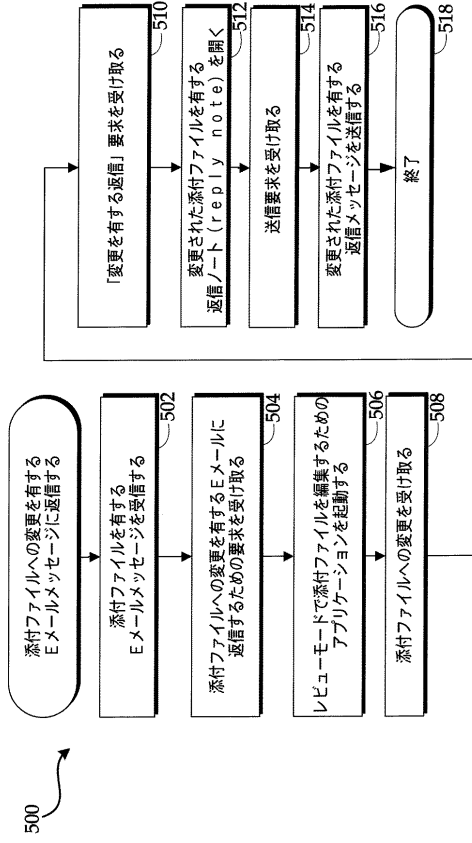
【 図 3 】



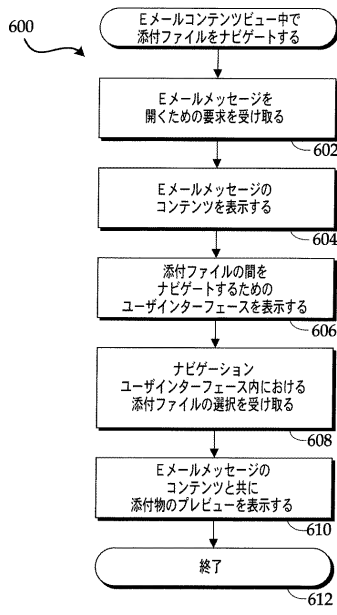
【 図 4 】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

- (74)代理人 100153028
弁理士 上田 忠
- (74)代理人 100120112
弁理士 中西 基晴
- (74)代理人 100196508
弁理士 松尾 淳一
- (74)代理人 100147991
弁理士 鳥居 健一
- (74)代理人 100119781
弁理士 中村 彰吾
- (74)代理人 100162846
弁理士 大牧 綾子
- (74)代理人 100173565
弁理士 末松 亮太
- (74)代理人 100138759
弁理士 大房 直樹
- (72)発明者 レベッカ ヨゼル - エプスタイン
アメリカ合衆国 98052 ワシントン州 レッドモンド ワン マイクロソフト ウェイ マ
イクロソフト コーポレーション内
- (72)発明者 アーロン ハートウェル
アメリカ合衆国 98052 ワシントン州 レッドモンド ワン マイクロソフト ウェイ マ
イクロソフト コーポレーション内
- (72)発明者 エルナン サバスタノ
アメリカ合衆国 98052 ワシントン州 レッドモンド ワン マイクロソフト ウェイ マ
イクロソフト コーポレーション内
- (72)発明者 エリック エス. フィンケルシュタイン
アメリカ合衆国 98052 ワシントン州 レッドモンド ワン マイクロソフト ウェイ マ
イクロソフト コーポレーション内

審査官 坂東 博司

- (56)参考文献 特開2002-183058(JP,A)
特開2006-107490(JP,A)
Sylpheed, Linux magazine 7月号, 日本, 株式会社アスキー, 2001年 7月 1日, 第3巻,
第7号, p.115-117
西田 宗千佳, 携帯電話やWorkPadとの連携が魅力の軽快メールソフト Shuriken Pro ジャストシ
ステム, ASahiパソコン, 日本, 朝日新聞社, 2000年 4月15日, 第264号, p.100-101
深川 岳志, アプリ比較講座 どれを買おうか迷っているあなたに 第10回: メールソフト, DOS/V
SPECIAL, 日本, (株)毎日コミュニケーションズ, 2004年 6月 1日, 第9巻, 第6号, p.
132-135
田岡 智志, 用途別アプリケーション活用ガイド Emacsを使いこなそう - Mew2.2, FreeBSD PRESS
, 日本, (株)毎日コミュニケーションズ, 2002年 4月18日, No.10, p.62-73
田岡 智志, Emacsを使いこなそう, Personal UNIX, 日本, (株)毎日コミュニケーションズ, 2
000年 5月31日, No.5, p.30-47
瀧澤 崇子, 電子メール即効テクニック 返事の出し忘れをなくそう, 日経パソコン, 日本, 日経
BP社, 2001年 9月17日, 第393号, p.233-235

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G 0 6 F 1 3 / 0 0
H 0 4 L 1 2 / 5 8